

# 全国学力テストの 実施について



## 問

43年ぶりに再開された「全国学力テスト」は、3年間の全員調査をもって現場での点検と今後の改善に生かすという所期の目的を果たしたとして、実施方法を変更した。即ち、31・6%の抽出実施と集計・採点にとどめることとなった（設置者の費用負担を原則に希望参加方式が設けられた）一方、管内教委連教育長部会は「最終的に各校の判断としつつも非抽出校の全校参加」を決定した。以下、3点について伺う。

- ① 全員調査による過去3カ年の「全国学力テスト」の総括をどのようにしているか。
- ② 町内何れの小・中学校が抽出されたのか。
- ③ 非抽出校の希望参加の目的はなにか。

## 教育長

① これまでの調査結果から、北海道では全国の平均正答率との差は縮まったものの、依然、全

## 答

国平均よりも低い状況であり、基礎・基本の確実な習得や学習習慣の定着に課題があるものと認識している。一方で、この調査によって、教育委員会や学校が、児童生徒一人ひとりについて義務教育としての果たすべき教育水準が確保されているかを把握し、そのあとの教育指導を進めるとともに、毎年実施し、全国と比較する中で、これまでの取り組みの検証・改善を図ることも、学習内容の理解度を計ることができると考えており、この調査結果を踏まえて、学力向上の取り組みを進めていくことが大切であると考えている。

- ② 本町では、小学校2校と中学校1校が、抽出調査の対象候補校に選択された。文部科学省は、調査の実施日まで対象校名を公表しないこととしていることから、具体的な学校名については、公表を差し控えさせていただきます。

## 答

③ 本調査への参加目的は、児童生徒の「学力の測定」だけではなく、全国や都道府県等の状況を参考にしながら、自校の教育の実態と成果を把握し、客観的なデータに基づいて改善に取り組むことこそが真の目的であると考えている。

# 全国体力テスト結果の 分析と対応について

## 問

一昨年から小学5年と中学2年を対象に「全国体力テスト」が実施されている。これは全国学力テストの「体力版」とも言えるもので、両者ともその背景には、全員を参加させ、能力を競わせ、数値向上を図ろうという確かな教育手法が透けて見える。以下2点について伺う。

- ① 全国体力テストの結果から、本町児童・生徒の体力等をどのように分析しているか。（特徴的な傾向や特性を含め）
- ② 子どもたちの体力向上を図るためにどのような支援

## 教育長

① 体格の分析については、小学5年生の男子では、体重の平均値で全国を上回り、女子は、体重、身長・座高いずれにおいても全国・全道平均を上回っている。

② 中学2年生の男子では、身長で全国・全道平均を上回り、女子は、やせ傾向が全国・全道出現率を大きく上回っている。

## 答

力や学習状況をつぶさに把握し、さらなる向上につなげていくことができるよう、これまで同様、すべての学校が参加していくことが望ましいと考えているが、次年度以降については、文部科学省及び道教委の動向を見守りつつ、管内市町村教委とも連携を図りながら、進めていきたい。

- 次に、体力の分析については、小学5年生では、総合評価の特徴としては、脚力や持久力を伴う種目において、全国平均に比べ低い位置にとどまっている。中学2年生では、筋力・柔軟性などに改善の必要性があるものと思われる。
- ② 学力と体力は、いずれも子どもたちが将来、自立して社会生活を営むための基礎となるものであり、そうした力を身に付けていくことは、今後の人生を送る上でも非常に大切なことである。

## 答

また、町PTA連合会や子ども会との十分な連携を図りながら、運動習慣の確立や生活習慣の改善の必要性について家庭や地域に広く周知を行い、学校、家庭地域が一体となった取り組みを推進していきたい。